

特集 家庭学習を考える

習慣づくり 環境づくり 関係づくり

長野県 P T A 新聞

発行
長野県 P T A 連合会
長野市旭町1098信濃教育会館内
TEL 026-235-4361
発行者/胡桃澤 公司
編集者/竹前 博 義

ホームページ
http://www.pta-ragankenet
E-mail
office@pta-ragankenet

「家庭学習にかかわるアンケート」質問とその回答

Q. 家庭学習について、子どもへの支援で工夫していることは？

- ・音読は母親だけでなく父親や祖父母にも聞いてもらう (小1)
- ・できる、できないではなく努力を認めてあげる (小3)
- ・「勉強」という言葉ではなく、勉強しやすい環境づくりを心がける (小4)
- ・父親とのかかわりを大切にするため、宿題のチェックは父親にお願いする (小5)

Q. 子どもの家庭学習をしている姿で、嬉しくなったことは？

- ・最初のたどたどしかった音読でも、毎日続けるうちに、スラスラと読めるようになった。自信がついて元気いっぱい読んでる姿を見て嬉しくなった (小1)
- ・時間があると「自主勉」をしている。担任の先生にほめてもらったのが嬉しかったらしく、自分からすすんでやる姿をみたとき (小2)
- ・覚えた漢字をお風呂のガラス戸に書いて見せてくれた。新しいことを覚えるわくわく感が伝わってきて嬉しくなった。「好きな漢字はなあに？」と聞いて、ガラス戸や青空に書いてもらっている (小4)
- ・子どもは読書が好き。一緒に読んで、その世界を共有し語り合う時間が嬉しい (小6)

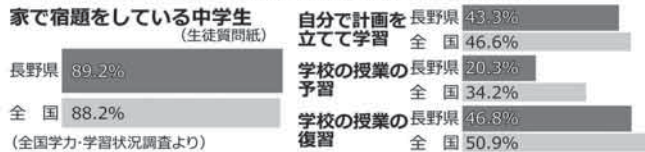
学習意欲は習慣づくりから

〈小学生編〉

長野県内のある小学校の保護者に「家庭学習にかかわるアンケート」を実施しました。1年生も6年生まで、共通して多かった回答は、習慣づくりにかかわるものでした。「子どもへの支援で工夫していることは？」との回答では、テレビを消す、決まった時間に宿題をするなどの意見が多くなりました。また「困っていること」では、取り組むまでに時間がかかる、集中

してできないなどの回答が比較的共通にみられた。保護者が嬉しくなったことでは、様々な親子のかかわりがみられ、心があたたかくなるような関係づくりの様子うかがわれました。その一部を紹介しましょう。

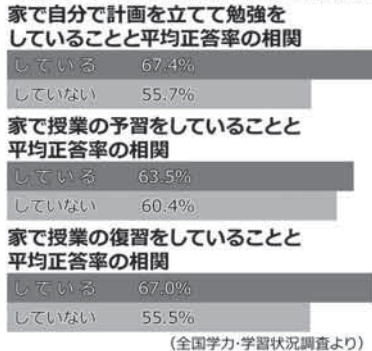
平成26年度長野県の家庭学習の状況



習慣を自主性につなぐ

〈中学生編〉

平成25年度長野県の家庭学習の状況



長野県の家庭学習の状況について、平成26年度「全国学力・学習状況調査」の生徒質問紙からの報告があります。

「家で宿題をしている」中学生の割合は全国に比べて若干高い。しかし、「自分で計画を立てて学習している」「家で学校の授業の予習・復習をしている」と答えた割合は

全国と比べて低い傾向にあります。また、平成25年度の「自分で計画を立てて勉強をしている」「家で復習をしている」ことと平均正答率の相関を示したグラフでは、「している」と回答した生徒は「していない」と回答した生徒と比べて、正答率が高くなっています。

「予習をする」ことで学習の見通しをもち、授業を深く理解することができ、また、復習することによって、学習内容を確実に定着させることができます。このように、子どもたちが学習内容を定着させる上で、予習・復習は大きな役割ももっています。

お詫びと訂正

長野県 P T A 新聞 221号において、間違いがございましたので、訂正しお詫び申し上げます。

1面 網引き大会
誤..千曲市 坂城中
正..坂城町 坂城中

2面 研究協議
誤..草田俊彦さん
正..草田敏彦さん

(T・S)

つながる家庭学習にしていくことが、学力の向上に効果があると考えられます。(未来を生きる子どもたちのために)長野県教育委員会教學指導課より。

2面では、家庭学習の状況や取組について紹介しました。

ノ・テレビにより、有意義な時間が、ずいぶん増えたことを実感しています。子どもたちは自然と学習時間が増え、また、妻は翌日の料理の仕込み時間が減りました。また、家族全員で同じ本を読み、意見や感想を語り合うなどの思ってもいなかった楽しい時間もできました。

わが家では、現在ノ・テレビを実践中です。小6と中2の息子、そして私と妻の家族全員で始め、4、5ヶ月ほど経過している状況です。どうも見たい番組だけを1週間分録画しておき、日曜日の午前中に見ることにしています。

録画している番組は、もっぱらアニメやドラマで、3時間あればすべて見終えてしまう程度です。

ノ・テレビを実践する以前のわが家の視聴時間は、朝から就寝まで、時にはオフタイムで子どもがわらわらするほどでした。もう見たい、もったいなく感じました。いざ、ふたを開けてみれば、「もったい」と思っているのは子どもではなく妻だったことが判明しました。

2月始めに青色の封筒に入ったご案内を各学校に配布させていただいております。 P T A 小・中学生総合補償制度

ケガをした 通院1日目から補償
ケガをさせた 左達に大ケガをさせてしまった
病気で入院した 日帰り入院から補償※1・6ヶ月のみ



- 24時間いつでもどこでも補償します。
- 個別加入に比べて保険料は約40%割安です。(注)
- 保険料は年間3,000円からのプランをご用意しております。
- (注)上記の割引率(約40%)は、この制度の被保険者数と保険金のお支払い状況によっては、今後変更となる場合があります。

長野県 P T A 連合会が平成10年より導入している制度です。

4月1日補償開始の申込締切は3月25日です！
詳しくは学校で配布された青色の封筒の中のパンフレットをご覧ください。

	申込締切日(消印有効)
4月1日補償開始	3月25日
5月1日補償開始	4月24日
6月1日補償開始	5月25日

長野県 P T A 連合会
〒187-0001 長野市旭町1098 信濃教育会館内
TEL 026(234)2180

引受保険会社: 共栄火災海上保険株式会社 お問い合わせ: 小・中学生総合補償制度担当係
電話: 026(234)2180

特集 家庭学習を考える

長野県教育委員会教学指導課では、家庭学習モデル創出事業、家庭学習シンポジウム等の事業を行っています。また、PTA指導者研修会でも「家庭学習」について考える分散会が開かれました。

PTA指導者研修会の分散会で「家庭学習について」意見交換

今年度、PTA指導者研修会の分散会では次のような観点で話し合いが行われました。

- ・宿題への取組の様子や親としてどのようなことを心がけているか？
- ・子どもの学力を伸ばすために家庭でできること、親として子どもにしてあげたいことは？

参加者である保護者から活発な意見や感想が述べられました。その中で、これまでのPTA活動では家庭学習について、考え合う機会がなかったので、学校や学級に伝えていくよききっかけになったという意見もありました。その一部を紹介しします。

参加者の声

- 学校と家庭がつながる家庭学習が大切だと思った。
- 習慣づけは親のかかわり方が大切で、習慣がつくと様々な力がついていくことがわかった。
- 子どものやる気をそがないようにするには、どうしたらいいか、みんな悩んでいることがわかった。
- 家庭学習に取り組む子供を見守ることや、一緒に悩むことも親としてできる大切なことだと思った。
- 子どもの学年が上がるにつれて「こなす学習」になっていくことがわかった。ただし、一人ひとり違うので、自分の子に合った学習方法を探して、うまくのせることが親の役目ではないかと思った。
- 子どもの思いをつい無視して、親の思いを優先してしまう。子どもの思いを理解できる親になりたい。

ご存知ですか？「家庭学習の手引き」

平成26年度長野県教育委員会の統計によれば、小学校89.2%、中学校91%の学校が「家庭学習の手引き」を発行しています。全国学力・学習状況調査から、学力と学習習慣・生活習慣には関連性があり、「学力は家庭学習で向上する」ことがわかってきました。「家庭学習の手引き」は、家庭学習のすすめ方についてまとめられています。ぜひ、お子さんと一緒に活用してみてくださいいかがでしょうか？ また、学級懇談会などで家庭学習について話し合う機会を設け、手引きを一緒に活用できればいいですね。



- 掲載内容
- ・家庭学習の意義
 - ・家庭学習の支援のポイント
 - ・家庭学習の基本と目標
 - ・最も大切にしたい授業の充実 など

今回の「家庭学習を考える」では、保護者の子どもに対する思いや願いを感じることができました。家庭学習が充実すれば、子どもが学習意欲も高まり、保護者と子どももつながっていきます。それを授業へとつなげていければ、家庭学習は本来の意味のあるものになっていくのではないのでしょうか。保護者として、子どもの規則正しい生活や学習の「習慣づくり」を学びたい、環境づくりややる気のある「関係づくり」の視点から、時には厳しく、時にはあたたかく支え続けていくことを目指していきたいと思いました。

未来を生きる子どもたちに生活の基盤である「家庭」の中から、自ら学ぶ力を育ててもらいたいと思います。

子どもたちに確かな学力をつけるための家庭学習のあり方を考える取組が、県下の小・中学校で広がってきています。長野県教育委員会教学指導課で、家庭学習についてお話を伺うことができました。その概要をお伝えします。

家庭にあったかかわり方を

親は、家庭の中で、子どもが宿題や家庭学習に向かっている姿を見ていると思います。その時に、子どもが何をどのように学習しているのかに関心を持って見守って欲しいと思います。また、わからないところを子どもに聞かれた時、答えだけを教えるのではなく、一緒に辞書をひいて調べてみたり、逆に子どもに質問してみたりするようなかかわり方が大切です。そのような親のかかわり方が、子どもたちの学習に対する興味を増し、学ぶ意欲につながっていくように思います。

家庭教育の中で必要とされるのは、親の寛大さもあってと思います。子どもは親にほめられたいと願っています。子どもは親の期待どおりに必ずしもなるとは限りませんが、その時に、親として子どもにどう接していけるか、子どもの心が動くかかわり方ができるか、静かに見守っていくことができるかなど、親として考えさせられることでもあります。中学生にもなると、子どものかかわり方は難しくなりますが、子どもが学習している時に、親が子どもの学習に関心



関心をもって見守る

を寄せて声かけするなどの姿勢が大切なことではないでしょうか。

日常生活と結びつける

子どもたちは、リアル(現実的)な家庭や社会の中で生活しています。勉強することや家庭生活を切り離して考えるのではなく、日常生活と学ぶことを結びつけることが「生きる力」につながっていく。自ら学ぶ意欲や態度が身に付いていくのではないのでしょうか。

- ◎子どもの頃、普段忙しい母と本を読み、一緒に母が感想を語ってくれたことがすごくうれしかった(父)
- ◎小学生の時、母は仕事で夜遅かったので、ノートに母が計算や漢字などの問題を出し、私が解くという交換日記のような形でやっていた思い出(中3母)

保護者エピソード(今、そして子どもだった頃) 親が向き合うと子どものテンションが上がる♪

- ◎宿題にある計算ドリルは一緒に読んでいる(小5母)
- ◎親が子どもの頃の苦手エピソードを話してあげると子どもが喜ぶ(小5母)
- ◎父は勉強ができないことになっている→わざと間違えた回答をする→子どもに質問をする(中3父)
- ◎小3の娘、わり算がちょっと苦手。夕食のおかず、とりのから揚げをお皿に盛っていたところ、中1の兄が「5人家族でひとりいくつ食べれる」と質問。大好きなおかずを目の前に答えを考えていた(高3・中1・小3母)

まとめ

毎年開催の料理コンクール受賞作品のレシピ等ご覧いただけます。 やっぱ信州の牛乳でしょ 検索



妹よ俺が怒られてるのに 隣で泣いてくれてありがとう でもそのイチコ俺のだけ

「楽しい子育て全国キャンペーン」三行詩優秀作品 文部科学大臣賞 中学生の部

お風呂で校歌 孫とおじいちゃん 大熱唱

長野県教育委員会と長野県PTA連合会との教育懇談会

子どもの「今」を知り 「未来」を考える

教育課題解決に向けた連携を

11月17日、信濃教育会館において、長野県教育委員会から7名、長野県PTA連合会から36名が参加し、教育懇談会が開催された。

冒頭で、長野県PTA連合会の胡桃澤委員長は「昨年、私の地元の御嶽山噴火災害の対応で、改めて学校・家庭・地域の連携の大切さを学んだ。この機会に、連携を深めるための有意義な意見交換の場となれば」とあいさつした。続いて、長野県教育委員会の伊藤学司教育長が「子どもたちを性犯罪から守るためには、学校や家庭での指導が大切であること、学向上において、家庭学習はとて重要であること、信州型コミュニケーションスキルが県民に広がってきていること、すべては子どもにとって、すべては子どもにとって、すべては子どもにとって」と話された。

その後、4つのテーマについて質疑応答が交わされた。以下に主な内容を載せる。



あいさつする伊藤教育長

「中学生期のスポーツ活動のあり方」について、県PTA「今後「やりすぎ」となる線引きをどのように判断していくのか」と質問。伊藤教育長は「長野県中学生期のスポーツ活動指針で示している活動基準が心身の成長過程にある中学生にとつて、適切な活動の目安と捉えられている。地域や学校、競技種目などにより状況が異なるので、一律に線引きするのは難しい。各学校の実情に応じて、適切に運動部活動の運営や指導がなされるよう支援していきたい」と答えた。

県PTA「部活動顧問の負担が大きい。顧問の業務について、配属やルールを示すことが必要ではないか。今後の方針をお聞きしたい。」伊藤教育長は「長野県中学生期のスポーツ活動指針において、組織全体で取り組むこと、地域のスポーツ指導者の協力が効果的であること、近隣校の顧問と連携を図ることなどを示し、顧問が過度な負担を負わないように求めている。また、県中学校体育連盟と連携し、各校技術種目の指導マニュアルを作成したり、実技指導研究会などを実施したりしている。」

「匿名性を担保した授業評価と学校評価について」

県PTA「来年度実施する学校評価シートの内容について、今年度中に精査検討する予定はあるか。」伊藤教育長は「来年度実施予定の市町村教育委員会と学校においては、今年度までそれぞれの実情をふまえて、評価項目の内容を検討していくことが重要である。」

県PTA「完全匿名とせず、任意で記名できるように記名欄を付加すべきではないか。今までの記名式のアンケートを実施してきた学校には、記名式と匿名式を併用する等の例を示した。これらを参考に、市町村教育委員会や学校において、評価項目や評価シートの形式など検討してほしい。」

伊藤教育長は「いじめ防止等の基本的な方針」について、県PTA「方針の効果と問題点の中からPTAに関わる事象があればお聞きしたい。」伊藤教育長は「県で策定した方針について、県PTAとして意見集約をさせていただいたこと自体が、いじめ防止の取組になっていると考える。全ての小中学校で基本方針を策定し、対応するための組織ができた。心の支援室や教育事務所から指導主事が出向き、いじめ防止の研修会を支援することができ、PTAが主催する人権教育研修会などに活用いただきたい。」

伊藤教育長は「いじめ防止対策推進法」には、学校の設置者または学校には「いじめを受けたい児童生徒のおおきく保護者に対し情報共有の手法についてのおおきくお聞きしたい。」伊藤教育長は「いじめ防止対策推進法」には、学校の設置者または学校には「いじめを受けたい児童生徒のおおきく保護者に対し情報共有の手法についてのおおきくお聞きしたい。」



教育懇談会の様子

「いじめ防止等の基本的な方針」について、県PTA「方針の効果と問題点の中からPTAに関わる事象があればお聞きしたい。」伊藤教育長は「県で策定した方針について、県PTAとして意見集約をさせていただいたこと自体が、いじめ防止の取組になっていると考える。全ての小中学校で基本方針を策定し、対応するための組織ができた。心の支援室や教育事務所から指導主事が出向き、いじめ防止の研修会を支援することができ、PTAが主催する人権教育研修会などに活用いただきたい。」

「子どもたちが置かれているインターネット環境の問題」について、県PTA「子どもたちのネット接続機器使用の規制やルール作りについて、今後の方針をお聞きしたい。」伊藤教育長は「平成25年度、県PTAとともに出した「インターネットの安全な利用に関する共同メッセージ」をふまえて、引き続き家庭でのネット利用のルール作りを呼びかけている。また、子ども情報モラル向上につながる保護者向けの啓発の機会をPTA研修会で設けられるように、県PTAとともにPTAと学校の連携を働きかけていきたい。」

「子どもたちが置かれているインターネット環境の問題」について、県PTA「子どもたちのネット接続機器使用の規制やルール作りについて、今後の方針をお聞きしたい。」伊藤教育長は「平成25年度、県PTAとともに出した「インターネットの安全な利用に関する共同メッセージ」をふまえて、引き続き家庭でのネット利用のルール作りを呼びかけている。また、子ども情報モラル向上につながる保護者向けの啓発の機会をPTA研修会で設けられるように、県PTAとともにPTAと学校の連携を働きかけていきたい。」

学校支援ボランティアの立ち上げ

佐久市立臼田中学校 P T A

近年、核家族化が進み地域の連帯感が薄れている。子どもたちが健全に育つためには、地域を力をつなぎ、地域全体の教育力を高める必要がある。そこでPTAでは、ボランティアを通して子どもと大人、地域と学校の親交を深める機会を増やし、地域と学校の協力の場をつくり、地域全体の教育力向上を目指す。PTAに力を入れて、学校を支援するボランティア組織を立ち上げることにした。

このために、PTAを軸として、PTA三役を中心に、地域からも有志を公募し、推進委員会を設置。ボランティアの位置付けや活動内容、募集の方法などの検討から始めた。ボランティアは、行政の仕事の手伝いや、先生方の日常業務の肩代わり、子どもたちを適切に提供する責任があることが明記された。関係者の個人情報に十分配慮しながら、情報を共有し対応していくことが必要。いじめの認知件数の多寡ではなく、いじめを見逃さず、丁寧な対応ができたことが大事だと考える。



学校登山の付き添い

ボランティアの立ち上げ

PTA三役を中心に、地域からも有志を公募し、推進委員会を設置。ボランティアの位置付けや活動内容、募集の方法などの検討から始めた。ボランティアは、行政の仕事の手伝いや、先生方の日常業務の肩代わり、子どもたちを適切に提供する責任があることが明記された。関係者の個人情報に十分配慮しながら、情報を共有し対応していくことが必要。いじめの認知件数の多寡ではなく、いじめを見逃さず、丁寧な対応ができたことが大事だと考える。

ボランティアの立ち上げ

PTA三役を中心に、地域からも有志を公募し、推進委員会を設置。ボランティアの位置付けや活動内容、募集の方法などの検討から始めた。ボランティアは、行政の仕事の手伝いや、先生方の日常業務の肩代わり、子どもたちを適切に提供する責任があることが明記された。関係者の個人情報に十分配慮しながら、情報を共有し対応していくことが必要。いじめの認知件数の多寡ではなく、いじめを見逃さず、丁寧な対応ができたことが大事だと考える。

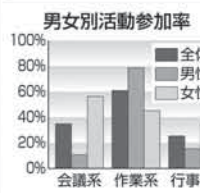
誰もが参加しやすい PTAづくり

下條村立下條小学校 P T A

下條村は、行政による子育て支援策や若者定住策等の充実により、村外からの移住者が増えている。下條小PTAでは、活動に参加する保護者の様子から、昔ながらの住民と、新しい住民の間に、PTA活動へ取り組む姿勢の違いを感じた。そこで、両者が互いに理解し、交流・連携を深めることが、PTA活動の上でも重要な課題と考え、誰もが参加しやすいような工夫と雰囲気づくりを実践することにした。

「いじめ防止等の基本的な方針」について、県PTA「方針の効果と問題点の中からPTAに関わる事象があればお聞きしたい。」伊藤教育長は「県で策定した方針について、県PTAとして意見集約をさせていただいたこと自体が、いじめ防止の取組になっていると考える。全ての小中学校で基本方針を策定し、対応するための組織ができた。心の支援室や教育事務所から指導主事が出向き、いじめ防止の研修会を支援することができ、PTAが主催する人権教育研修会などに活用いただきたい。」

「いじめ防止等の基本的な方針」について、県PTA「方針の効果と問題点の中からPTAに関わる事象があればお聞きしたい。」伊藤教育長は「県で策定した方針について、県PTAとして意見集約をさせていただいたこと自体が、いじめ防止の取組になっていると考える。全ての小中学校で基本方針を策定し、対応するための組織ができた。心の支援室や教育事務所から指導主事が出向き、いじめ防止の研修会を支援することができ、PTAが主催する人権教育研修会などに活用いただきたい。」



「いじめ防止等の基本的な方針」について、県PTA「方針の効果と問題点の中からPTAに関わる事象があればお聞きしたい。」伊藤教育長は「県で策定した方針について、県PTAとして意見集約をさせていただいたこと自体が、いじめ防止の取組になっていると考える。全ての小中学校で基本方針を策定し、対応するための組織ができた。心の支援室や教育事務所から指導主事が出向き、いじめ防止の研修会を支援することができ、PTAが主催する人権教育研修会などに活用いただきたい。」

ボランティア活動

地域消防団ボランティア学校の避難訓練にあわせて、地元消防団が、防災指導、消防団の役割、日頃の訓練の大切さなどを講演。また、生徒たちの訓練の様子を見守った。訓練の様子を見守った。



陸上の基本を教わる生徒

ボランティア活動

地域消防団ボランティア学校の避難訓練にあわせて、地元消防団が、防災指導、消防団の役割、日頃の訓練の大切さなどを講演。また、生徒たちの訓練の様子を見守った。訓練の様子を見守った。

「楽しい子育て全国キャンペーン」2・3年特優秀作品 厚生労働大臣賞 一般の部

第23次 実践報告

長野県PTA連合会では、昭和61年より研究委嘱事業を行っている。郡市PTA連合会と連携をはかり、数校のPTAに研究を委嘱、委嘱されたPTAは、各PTAの抱えている実情をふまえて、その中から取り組みたい研究課題を設定し、2年計画で活動する。PTAの課題等を少しでも解決できるように研究を行い、その成果をPTA役員研修会や長野県PTA新聞に発表することにより、全県のPTA活動を活性化することを目的としている。平成25・26年度の委嘱PTAのうち、2PTAの実践報告を載せる。

